一甫漫集

三

智恵較　六廻圓曜置物
万字拾物　惣取碁
十石二ツ越　十五數並物
近世野馬代詩　吉原化物
箕浴問答　謎ヲ紙
獸　立　夢刻札
藝者引札　菊禮引札
奇妙朝菜谷中問答

1 曽 5
35
3

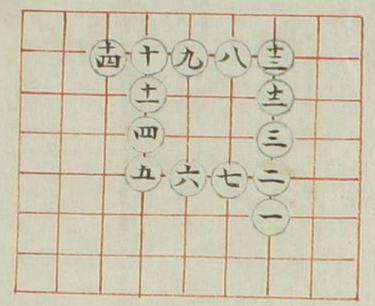
仁5
35
3

尚古齋藏

曾イ門
號 85
卷 3

智恵較

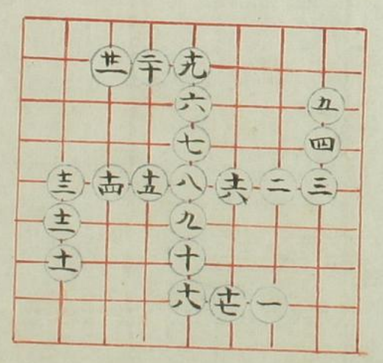
○事のひらいろ



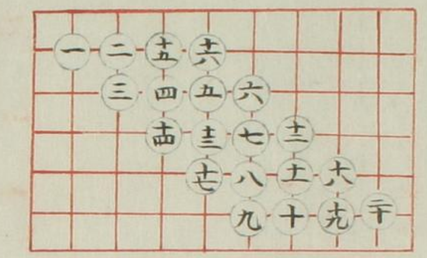
碁盤之上ニ如此並テ筋ヲツメイ取事也

ひらいろ一二三ばかり

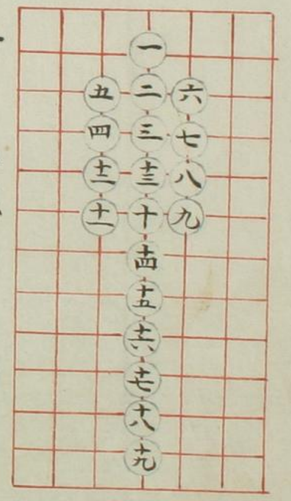
○万字のひらいろ



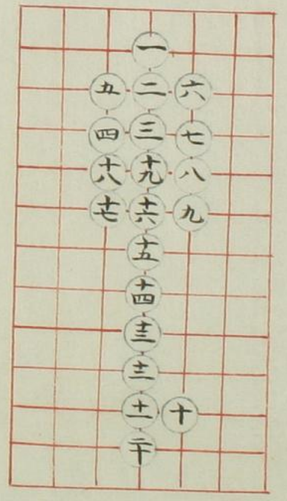
○八ツ爲ル分ケ物



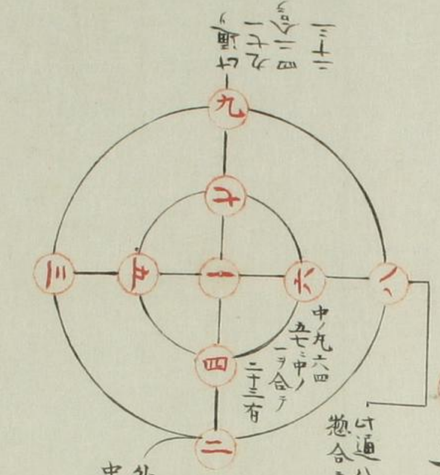
○矢ノ分ケ方



○斤矢根ノ分ケ物



○二廻方曜トシテ並ベタル



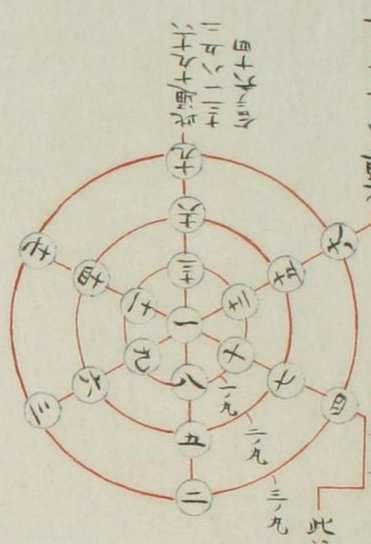
一 二—九 三—八 四—七 五—六

右並ベ様ノ術ニ曰一ハ真中ニ並ブ故一ハ除テ二ノ下ニ終ノ九ヲ置三ノ下ハ八又四ノ下ハ七又五ノ下ハ六ト書附此ニテミ合ヲ外ノ九ニ也共内ノ九ニテモ並ベル也曰差渡ニニテム様ニ可考合

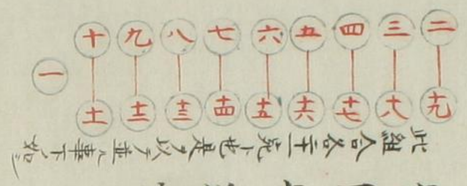
ハ右ノ如ク物ハ上ノ圖ノ如ク九ヲ書ニ一ツ〳〵九ニシテ入ル也モ元渡シ〳〵モ同ジ数ヨリ成ル様ニ並ベル事ナリ

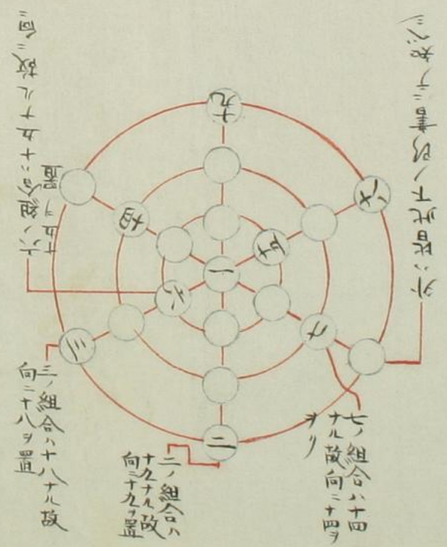
其並様如此九モ差渡モ中ノ一ヲ添テ各二十三完ニ也

○六廻圓曜置ト云並物

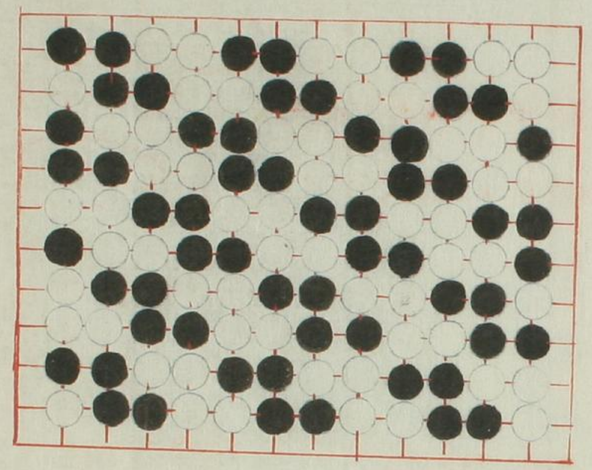


右並様術ハ此圖ノ如ク一六外ニ而二ヨリ段々書立十九ノ終ニノ組合ニ也ル様ニ書此組合ヲ以テ並ルナリ





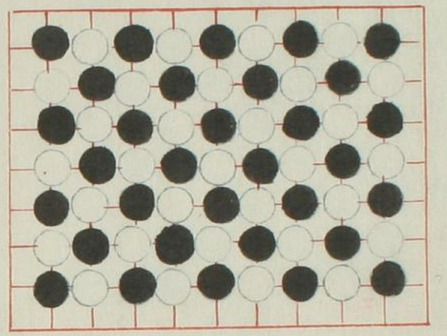
○四ッ石惣取碁



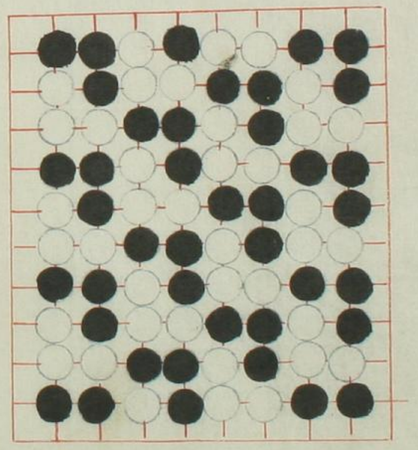
右ノ取物ハ一人のみぐさしにて
ちらし人多くあつまりて元物を
碁ぐの上ニ如此白黑ノ石ヲ並べ
先ッ黑より白ありても筋を待
元ルかり其跡ハ黑ある方ニ黑
ちらしある跡ニ白多ク取ル
何人かくも須ふ元て出する
後ちらし始ル依て惣外多ク取ル物ニ元

くもく多くんをとるあるくんを自掴とる事

○四ッ目惣取碁

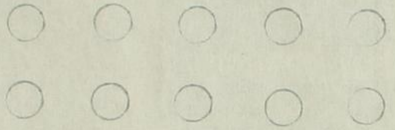


○三ッ星惣取碁



○十石二ッ越ト云並べ物

此術ハ左ノ如ク石ヲ十ヲ並ベニッ越シテ壹石越ニ二ッ宜ク並ベ給ヘト問事ナリ並ベ様左ノ如シ



如此一石宛越テ二石宛左ノ並べ様下ノ如シ

一 先ヅ四ノ石ヲ一ノ上ニ置ク

二 二番ハ六ヲ九ノ上ニ置ク

三 三番ハ八ヲ三ノ上ニ置ク

四 四番ハ二ヲ九ノ上ニ置ク

五 五番ハ十ヲ七ノ上ニ置ク

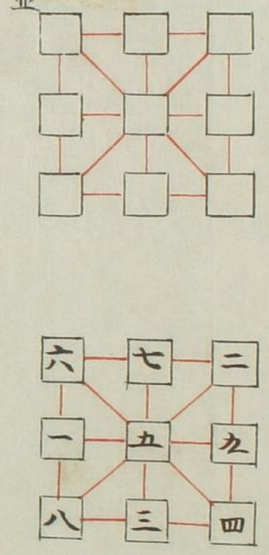
六 七 八 九 十 石各越シ終テ下ノ圖ノ如シ也

○十五數ノ並べ物

如此從一九迄書テ三ツ宛三行ニ並各壹通リ十五ニ作リ給ヘト問並べ様左ノ如シ

一 二 三 四 五 六 七 八 九

右之數ヲ如レ圖而ヌテ横十文字各十五數ニ並



近世俗説野馬代之詩

滑水好外御手寺責亦來
松狩牧存祭當此篇和再
木人生力士慎至必尚皮
踊四捕大馬織薩布太船
被出川小蹄羽薄紋布笠
叱迎町判許通人小藤紐
寄木所煙裏聲之咄暑殘
合咄狼烟苦日暮御世止
日吉成尺高日日穏上雨
高尺土六松婦股倉千飡
利折悪當去少雲箱両狸
爲闇口別玄闇峯婆々古

鞘（サヤ）　写（ウツシ）　圖（ヅ）

吉原化物

新閑流

兼法問答

一 新吉原町々仲町百人町問

答 人丁町人

御曰吉原蓋の子声を亟さ人皇四十四代を

加養老四年乃四月一半代八幡の八割八

百二拾六ヶ所ある内八丁を引口八丁

を、くるとも 二百五拾六ヶ所仲のかと先の二丁を

に〳〵割二十三の三ヲ引バ四百八十文残二階庄屋の
二を右の〳〵やたに亜〳〵法こなし又かけ合人を
なすよ撰ルとんぐ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）割を二四二文ト
成ル也〳〵五子の四角の四を撰ル也七歳月の
出ル海日の三十と五ヶ月十四の十ト〳〵と六四の
人を引て六二歳也〳〵少〳〵ふつくい二之の十八とおさ人の三ル
加（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）ゆ（ゆ）八文字ハ八を引て六十文ある也を
角分〳〵十三度の十三を法〳〵割を別ム下
と知〳〵

一御名主武兵衛の庄村の人数仁寿元年
四十七人
御日忠長義土浪清〳〵亜鶴ヶ岡八幡の八を撰ケ
万〳〵一を加（ゆ）一八八歳ル也を別〳〵亜爺之者人の
之〳〵定之帝の之〳〵合テ十八〳〵ある板のもてれ十六を
撰二八八〳〵ある外ニ四ほ〳〵彌八の八〳〵角程ヶ鳥の
六ヲ引二歳也〳〵〳〵二八八ヲ割て百四十四と成ル也を
新年子人の年二十〳〵ある之の外の代人撰ヲ
引六四〳〵ある別ニ矢間十七帝の十〳〵子濱

潮帝の御代に汴梁を多人の八と三ツ合三歳に
なる者の六位を賜ると
刀潮の年十六の小波の年の十四を加へ
一四七人に割り由良度を糸引き多人に布
度の人百人を加へ割て七人となる者へ
寺屋寺馬山科の人百姓百二十里を加へ多
合八百八拾二人となる 内百八拾五人を天川屋
儀兵衛の借りを川
祠堂人合三組 晋百人を波に
一八八人を割て別四十七人を知る
同人月早割波
御曰 一多賀の年六十四を延嶋の紙布の
人十五を加へ竹胴中を二ツ玉に
月の人を賜ケ 勘平の年三十を割て別
四拾七人を知る
一梅川忠兵衛元合四拾五人を仁王寺
音 武右
御曰 石原道を
大和屋と

大和屋の三つ人三つ扇を合て生き五不
のとき四人下をりけ京の六條北ちゃう
割二ちにむ〳〵の二をかくまでゞ之と成別
二津人席の三角寸四席の寸をり別
ところ〳〵割と三六いとる長二人姿の
二ちゃう割で實ふる元合四接面十日
服を加ところ〳〵割をのちゃう二十月と
ゐるところ別合式ち

獸 六

一吸物　昔の所代こる慢

一硯蓋

一先牙

ゆかい事の注と男
大女仲像ぎれ
尚もとを八ッ割
かなるなぎり古汚べ
こる物りちの入濁
ろ別名

非〳〵のこる屋
面さよ十人女
下正ぎれ相滅の級
モ〳〵ちゃう
出の女仲間ち
ほせ相に実ち人
色のこるの小女

一 浜育

一 大平

一 井

一 汁

一 平

一 猪口

一 燈籠

一 菓子

一 香の物

硯蓋一月

一 安宅の仲間衆も来次 一 宰屋

汁一角

汁ノ内
一むすこ屋の小力
[illegible]

精ロノ内
一小こ柄の宝引
[illegible]

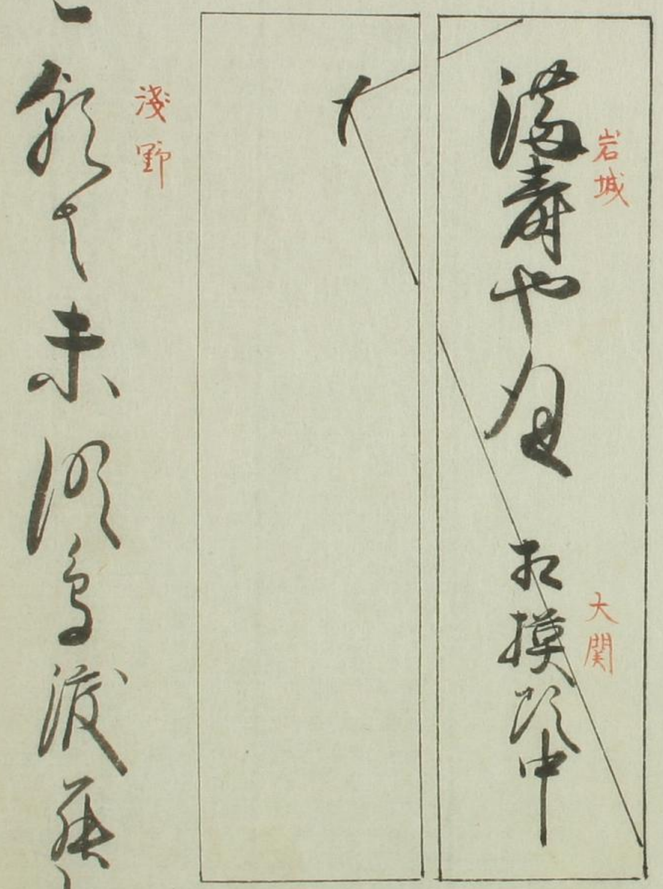
菓子ノ内
一乳くらべ振
[illegible]

陸物
一ひらこうの蹴次の戸
[illegible]

一大川筋の川波
[illegible]

右之通の割
是者武陽玉川戸御用ニ罷越居ル節庵原君ヨリ
慰ニ[illegible]

同 大名旅六人
之者



北条 内田 太田

秋田 長井

加納

新庄 本ヨリ 岡部

秋月

八月十又廿日

謎手紙

夜震を出て宮をかくれがらまかぶれ
あってつびに見ぶすし大の用法の五百夢
よすり木のるき京深殺屋所り為一つ木
半四帝ぶ苗字と自ょ入ら毛ふげ少ケ蔦
生出るよ一日たらず蔦ら切茶の小風
ちしに御木ょ木馬のか牛寺古屋屋
の姫ら牛ら明方一死人ぶ豆腐代
油で煮、芭蕉ら四竹ちを三ふ毛ら

孔子の肩を添へ[illegible]千字
潰でるる詩ぐねる　鬼が潰れる拍子と
[illegible]ましてもあらば奥の親さ[illegible]
流れ自のるる煙草神輿をかりれば
すぐる渥の文華たる文字屋の政人
人迄の所るを止める声屋をるるおと
屋の高い化物と数を人とせうか境と
組せ十無路盤[illegible]白墨の親
いるるがるる十二支の仕舞よあるる
手の筒うぱる面の赤鼠屋をるる

言葉よる屋ちるるず面の指をある
て大ぶんの大をるる桶屋作て場四人り
の賀蔵舟稲の生くるる不が蓋をと
るよのも出根のるるているるる城こ面かた
肉をる肩志鶴の大ねるるメりる
設るをと射板

一り宣箭をちる面にて
のしがからき汁り二りある
料理よ五り菜るる
法芝法り元沒り運と
るる

義の歎願を似て
てのよるき思ひ

文言意

七月廿日こゝ清状十月十九日届け
洋人中上の機嫌能き大悦ん
尚地一月廿三日辰上の休息了
三下の重役（仏間ホリ相ラ）えゝ迄ゆゝ笠
十月廿日
但尚デ名ニ外いまゝ石ゝ山ゝ者ゝ
一ニ下ル

夢引札

口上覚

一 凡様口上之儀ハ秋成親代ゟ甚各儒ゟ
宛も相入ゝ御様中義ハ之ゝ
相恨ニ年中之石斗仕家業を
迄日宜敷ニ成 今ゟ影ハ不相仕ゝ人ニ
代ゟ返 今ゟ処世ゟ元存ゟ一向ゟ
不仕先年ゟ儲ゟ皆ゝ義ゟ仕
尚ゟ中右今ゟ義ゟ悔ゟ濃ゟ

浪花生涯樂仕事　嬉遊浪居を以名のこゝ
元角に出世所やさかん舟　悠然楽亦うるさかず
此度別宅仕り浪居を慰ずゝ美と商賣仕候
うゝ悠々舟ゐて来れ申ノ三月二日ゝ新見世開き
仕候在代。預こ浪ゝ花ゝ不もゆ上通私文齋ゝ毎
晩美と見ゝ見ゝ見ゝ一生ゝ楽しゝと仕只八ゝ
世急慢見ゝ成ゝ舞ゝ想ゝ人ゝ写ゝ楽ゝ浪ゝ商
夢淫楽舟ゝ楽ゝ舞ゝ子細ゝ之ゝ有ゝ
奢と寵ゝ浪ゝ一ゝ入ゝ花ゝ武ゝ美人ゝ花と
かゝゝ人ゝ書ゝ女と恋仕ゝ鳥ゝ楽ゝ氣ゝ

舞切ゝ浪ゝ花ゝ不仕ゝ楽ゝ所ゝ廣ゝ
舟と痛ゝ舞ゝ人ゝ退ゝ浪ゝ楽ゝ世ゝ市ゝ大ゝ
苦ゝ楽ゝ舞ゝ病ゝ家ゝ無ゝ浪ゝ
世ゝ舞ゝ亡者ゝ詞ゝ多ゝ孝ゝ人ゝ命ゝ対ゝ事ゝ
怖ゝ武ゝ不ゝ存ゝ元ゝ氣ゝ撰ゝ不ゝ浪ゝ渦ゝ
舞ゝ又ゝ吉ゝ美ゝ商ゝ歩ゝ市ゝ浪ゝ費ゝ
存ゝ浪ゝ不ゝ仕ゝ指ゝ酒ゝ舞ゝ中ゝ氣ゝ
ゝ舞ゝ写ゝ美ゝ楽ゝ仕ゝ浪ゝ親ゝ舟ゝ
相ゝ十ゝ年ゝ七ゝ十ゝ年ゝ六ゝ年ゝ百ゝ一ゝ晩ゝ
懈怠美と見続ケ平中病家ゝ孰ゝ家ゝ

前々活計を度々不限江戸江見廻被親一生之
海亜の義等し移変等と悪書面を作り拙処
を年世上富貴江甚流行仕不こと等し者右
札の求を拙者も免しの儀迷惑
居る人々の事の神の曲を生存し書物も出
版又義を清賢を拙者の判決に居る九果拙
者の成も有し事に の神の 稲荷 の自由の義を
清賢を拙者事も世成兼一手引 清賢人様方
の賢を拙者事に清義て 古山の物の成を惑す
事る不正の義も の流を拙者事に義の事を正不功之

成る義判を為の右を拙者に渡す 触れの義も変しなる
の義に判じの事も多し 志の換る事に義の
むる人に義を賞元の大酒長之に成の事
和藩に於て例に不お事の 此度秋下
義世上愛に人々 亜流を拙列 下亜に元上
中の有成久義清賢の為 紀伊亜産業
代物渡す限る此味仕迷つ後の事 元之事
たい者きに亦山仕入義亜 すこも之りと仕
の性成の事に 毛沢義の義
義し 殺夷 蜜蜂 蓄藤 に 物 別 言 義 有

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

[illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一 [illegible]

一足立紙波山之上山之麓に行水を渡る婦人に
謎いの美尓

一書林免角有樽に新美夜寝ホ迄る者に
ぎ〳〵いの美品〳〵

一大角足刀刀唐茄美新夷茶に世〳〵の水
ホ子に謎いの美尓〳〵

一富士畫け人〳〵清美尓〳〵

一清か堺屋敷者を迄る豆腐の美味品〳〵

一急雅の告美尓〳〵一詩寸連俳の美也尓〳〵

一名方業の美点美尓〳〵但し万病〳〵

一清女中病向キ芝居志る〳〵

一ハ点子病向告尓美周場尓の美尓〳〵

一京し美大坂し美品〳〵

一浜風名尓旧跡の美尓〳〵

一入唐渡天の美尓〳〵一の美尓〳〵

一日待月待雨中つ迄〳〵の慰化物迷昊
の美尓〳〵

一美と美〳〵う〳〵先の〳〵の吐こも相成兼ん
の美し小切レ尓〳〵

一盧生（ろせい）棺桶並に四角、十六年掛（かけ）、五十年掛（かけ）申候

但――掛値なし売上申候

外並に法華経百部、逆茂木澤山、入棺

間敷（まじく）候、御用之為、御代参を願上

仕

未十一月吉日

御目下

吉

本家　さるが町

こるこ側　富士屋大吉

取次所　こんや町　すすや　こうじや　やなぎ源次郎家　うしやや　孟蔵

別紙を以て下奉願候義と存、猶に御くらべ

棺桶式は奏上仕候ものに御座候

猶々申上候棺具の安価の川九七軒

まるかつ　玉屋　ちくま　江戸中の

御列に成候　川九も元に基づき

て世間に遠慮なく　雅興

仁業成べし　尚時を世界も富が頭より行はる
度の堂塔立かゝりの勅化ら江中盛ん
る〳〵富貴り安永年中の繁昌
古打人〳〵委敷書〳〵引九も家
の〳〵ら〳〵ら　此処を度〳〵富停止
堀成在り処文化始〳〵まし富貴り
文政度に〳〵富の在に敢世ケ所の

惣七安貢の引九セ一筆

悔ふ〳〵沿ら書ら〳〵れ　世ふ柄塗ら塗り人
豊の勇健〳〵書石の写籠舟の敢ても屏蔽
す〳〵普〳〵配る島服の安貢人商人の智恵
を拾ふ〳〵人のうるとえ〳〵ば叶九
ら中絶ず〳〵沿戸中隅〳〵すると存ち
紙半りも須彌山を決貢よりても易うる
べ〳〵夫の〳〵るす俄ぬ〳〵の雨の〳〵ば壇の
賃金ふ子七百歳まで〳〵筆を見そ〳〵

[illegible]信長卿の家来人踏一ぱいまでひろう屋の
雪のごとく畳も肝と沒すること稲光りの目を驚ろ
く赤の縁と沒するごとく玄関より塀この小高くも
盤昌をうつ風こと雨こと[illegible]安堂の九月の
流れの女[illegible]ちく油汗を流し世中より年中[illegible]
沒之年[illegible]と足をとられびの功徳を捧げ[illegible]
[illegible]甲斐もなく生[illegible]神殿の神[illegible]ひろう小高
[illegible]を跡[illegible]ると[illegible]一[illegible]を疱瘡の世次[illegible]
秘蔵[illegible]より[illegible]て[illegible]欲[illegible]親[illegible]の洞の雨より漏田川
のごとく増[illegible]沒[illegible]も玄[illegible]二文と

[illegible]をなしてよをなおあげて振[illegible]も[illegible]より欲きうち
[illegible]かるとしてうぶ寺所通[illegible]の[illegible]乳の布川通[illegible]
叫[illegible]し揭[illegible]黙[illegible]白無屋の恵七[illegible]猿智恵ふ
男商賣物の[illegible]頂科清の[illegible]乳
の[illegible]郎人の力[illegible]見[illegible]人ふ[illegible]
[illegible]ちぎ[illegible]て松育よ[illegible]沒の主[illegible]茶碗[illegible]あと
我商賣の首[illegible]庵ぼうぐ[illegible]
沒戸中沒し素し[illegible]乳投[illegible]通るといい
ふる安賣ぐ[illegible]沒人[illegible]を見[illegible]其文に曰

一 万意外ニ上書ヲ以テ之ヲ私店念仏講前講渉世話役方ヘ願ヒ願ヒ河内江罷出
遠日繁昌仕新之仕合幸有ル為ニ尚年ハ子供
向ヒ猥ハ世上一流賣切ヲ以テ農休ミ
言語ニ及ヒ成ル雅楽ニ及ヒ由形ハ其上下地堪
感ル銭ニ仕之ハ宵急ぐる宵ヨリ合不申一
細之義ハ後ヘ一ハ前ハ遠ク路次ノ宿モ解
ず〻成私義ハ去ル〻運氣ヲ考ヘ澤山ヨ
仕入遠ク丈ヨリ後ヘ宵ハ行程成大渉用深
ニ 御用一三ヶ下ハ正限仕一ヶ月ハ自ら成大忠多

異ハ成夜ヲ義ハ四方ニ入市ハ衰度モ五番
発之一ヶ下ハ

一 町市ニ成ハ忠用ニ水免麻ヶ下兵ハ編笠ニ成
ハ屋敷場方ヨリ一切渉用ニ成世
ニ成ヨリ言語ヲ言語ヲ異成早賣ハ調
ニ為ヘハ噂ニ及具モ不成宵私方ヨリ預料
貸ニ仕ハ渉入用ニ成ニ 御用一三ヶ下ハ

一 自然渉親新方ヘ女中渉京物女舞宵
ヲ毎ニ云ハ只ハ〻早束一三御少ハ急行程ハ
乃成渉手次第方ニ預ヲ方〻ハ遠ク遠ハ

女中より差出し一通り之品物ハ下女も差
次第白小油又ハ之類物の好嗜ハ孫兵衛ハ
上又清寺ハ清ハ道寺ハ流浄明寺ハ柳子庵
同言ハ法出ハ坊ハ兼ハ稽古為後並ハ万一
之長法寺柏ハ沒ハ資浪ハ之ハ賞ハ
一清ハ不ハ親類ハ方ハ不伝女中方ハ供ハ白小油
兼ハ帯綿帽子及其物ハ如ハ猶科貸ハ仕ハ但
一ハ家ハ〻ハ供ハ女中近所外居ハ及後
万一白小油ハ之ハ清ハ寺ハ後ハ之
ハ之ハ大小ハ依ハ人清ハ一通ハ之ハ人遣ハ

近ハ之ハ家ハ間ハ之ハ事ハ及ハ為差ハ
一町方ハ市近三年御山ハ所ハ只今ハ清先代
ハ之ハ格別ハ相見ハ万一ハ則深ハ
方ハ一ハ先代ハ同之ハ為ハ何時ハ
一三御井ハ何十人ハ四軍寺指ハ了
ハ之ハ寺ハ遺ハ法ハ増別紙
積ハ並ハ万一兩人ハ為ハ資浪定外
ハ相増ハ後方編先供ハ鼻ハ寺
仕為業月功ハ清ハ馬廉ハ法ハ
ハ男ハ之ハ年ハ清教ハ自慢

顔ばかり出すなり。一ツ仏法に成
成ぬるの前に何程も其人働次第に位貴
のぐ一ツ一ツ

一 所中新道裏店に流中念佛題目の唱
も出来る迄葬礼淋しく寂寞毒に成
是亦一ツ作法の速究竟の美なる茶碗
掛ん羽織腰よりそこく是流行せる式の
四方を入法施主方俗ニ葬主ト云ふかまる流儀
と〜久老道ぐも世還の女中より言に言
ちと第〜第〜よいとこと拍則

煙草ふ為成一ツ作ふ又ふ原よりの道人元元
流行ふ題目同音より唱へ出ル一ツ出ル人
ぐ〜の為ぐ〜ト作一ツ出ル

一 近比所方の習ひ病人いまだ是まで内
ぐ〜の上不の方に公儀門の戸ざし簾
四方を閉ふ迄の前に遺ひより葬ふ
行ふ方ふ人一ツ作ル早速葬ふ中
ふ一ツ二字幸澤流の無書ふる迷免状行
ふ迄行厚も(朱)の者に会ふ作法儀式
ふ儀ふ元中の日限次第おふ貸銀

此節御沙汰し出し候甚以手迫し宜敷候旨了云
御座候
一寺方悲所役人共儀葬禮の最寄ともなり
無之の浪人拘へ置候儀も兼て流行之字
有之由ニ而死骸を書上せ差留候旨三ヶ御座候
右外葬送一件、葬祭姿能帷子地流
漉頃染茶碗七本ニ位者竹ヲ括り置こ
差出申候所、葬祭姿ニ而死後の葬式
頃ニ而相成申候処風俗相乱不申候
様ニ而御座候の事の由ニ付而
役所ニ而候兄ども申候の節ハ
申事ニ候旨ニ御座候一ヶ年ニ御座候文字通路
伐而申候様人差置清風ニ而猶之潤申候
再四月から貴出し申候よし
四軒寺町角より四軒目脇兼肴
(死)

早市より白地の浴衣に仕立て間に見せ
て[illegible]世を[illegible]顔見世を[illegible]
自然度[illegible]九寄[illegible]任に成て行[illegible]一死
の字[illegible]屋物也[illegible]

新製江戸藝者大安賣

一御所中に於て[illegible]
[illegible]
[illegible]
入る時[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

一正月音切番付仕候ハ、箱根同断
極月の年忘レ大晦日ニ仕候ハ、去歳変成
ものゝ仕廻ニ仕候ハ、物の傳ハ上ニ而
但一序金言述の反義ハ金言述の異ハ
いつれも可ニ仕候ハ、
一山猿の客人（長唄厚ものゝ文章入九ツ
一段の置と落ハ上ニ
一通り大景人（江戸市ハ一中節
上方唄ハ新潟
陸奥ハ遠ハ
一相撲好客人（首引ハ相撲ハ物引ハ
但手人玉引ハ仕方ハ仕候
一ハ義ハ（原ハ
二度も引ハ
どゝ引ハ
但でんぼゝ
ごゝろ
でも
一ハ弁慶（作川ハ
文人
一ハ源氏一切ハ仕候
附ハ本毋ハ
ハ本仕
江戸繁昌町いろは
こゝ屋

過ぎて後二世安の坊がらおもへとこそ
捨てよの陰ぐ　夢こそ
とこそ　はかなけれ　はかなきものは　生涯　真実
ぎつて　おとくが顔　とたくぐ　手深め
和尚　ずつ　いる　人　と　我　そ
さもかうしげよ　へ　こそ　笑　こそ　こそ
家　と　生　せ　こそ　人の　世　人　る　人
じ　こ　こ　人　男　は　情　と　こ
永　若　男　よ　男　ば　ば　め　こ　こ　い　人

おとく　答曰

むし　取　る　こ　言　よ　の　若　号　は　奏　こ　一　切　の
祝　生　を　は　ら　ら　せ

家　こ　人　の　男　を　奏　こ　こ　こ　こ　こ　ば　ん
こ　を　は　ぐ　こ　る

和尚　こ　問

女　人　で　夢　を　ど　こ　を　こ　こ　い　う　人

おとく　答

涉　こ　夜　の　こ　身　こ　か　こ　ど　も　な　の　庵　の
水　こ　ま　い　ま　ず

和尚　こ　問

此　こ　こ　の　こ　こ　人　名　る　位　の　ひ　こ　も
百　姓　男　人　も　な　こ　れ　は　こ　れ　は　こ　あ　れ
こ　こ　い　う　世　こ

答曰

大海も汐瓶のうちもかげ如何ぞ身をかくす

ず芳人の意

又問

汝ごとらうそ我常と事いふん

答

白露をむすぶ常よなぎさ川ぞ渇る

深ぬいんの蓮葉

問

夫人ごとの宮よ紀陸文と書

夫婦のけいやとこくとろ

ろるこいうず

答

宮よこくとのうちあるとまし

こうや義き二世ちぎうと

又問

汝ものはくとこうこうろよかな

宮の方へこくも居宮よ深ぬ

宮の方へとろよ顔を出まぬをいふん

答

雲ものうきはぬぎよ深ぬこと月こと積る

うへを毎月ものはこと共

又問

見世人よ腰をとめ諸事の人を別

をおはくとこいふん

苔

[illegible]

又同

[illegible]

苔

一下筆は夢[illegible]の[illegible]咲[illegible]を[illegible]

[illegible]

又同

叶[illegible]

苔

いろはにほへとちりぬるを　日暮をや光る
香をにほへとも　もえさて　山ふ見ぬ[illegible]の[illegible]ぬるを[illegible]
う未[illegible]ぬ[illegible]日もも[illegible]
ゆかよ[illegible]楽[illegible]たれそ公の
あ[illegible]二世を[illegible]つねならむ[illegible]
[illegible]うゐのおく　[illegible]
こえてあさきゆめみし　[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
かなの四十八[illegible]
[illegible]

又いとし

いるふんじぶ者の上を主又は言さつさつ人

若

ゐふさへもいやふ岩とは七にぶ〜まどと寅

〜者のうへの外きはゝ屋敷

ゐぶ已のはまとうとすぶ年いまてぶた

のうぶまていうぶ未もうたぶもとず申

せとゆをとうとゝ岩の氣ぶとと酉

ゐぶ中ゝはうゆのぶうたくまし成ゝも

ゝを主ゐをぬゝとぶのうゝのゐぶ

ゐゝうゐ

きいたとゝ

不火太食水見又行をゐ里のゆゝひとゝ

さゝはうゐゝといふゐ

若

寺ゐかゝふゐうゝ動ゝの極ゐ不火太食

見ゝをかゝさゝゝを泳ぶ

麻へまるゐゝ太張ぶゝゝゝゝゝるのぶ

ゐんゝも法ゝ事ゝとゝるのぶ

火岩ゝゝ三川はゝ曇ゐぶ

又いたとゝ

家上の白をゆゝけきゐのいゝゝゝゝ

ゝはゝゐふんじ小家ゆの百人一首の下

の白ゝゝをいゝ若ゝ

七ようの説

西海よりぬきたるかたの方丈記
云ひはてぬうちに
雪霜をいとうずまきて
ながれ流るるかもの如
河舟や別深雪をしのぎ
さらさらぬもの切の関
走りてはしるもおそ屋で
しるきはげしかるまき
雪をよそに世間のまくれ
ゆくかよりは流れぐかまこと
別深雪をしのぎ
こうらぐこそ世をてはやら

和尚
和尚
和尚
和尚
和尚
和尚
和尚
和尚

ずとをるやうもよりや地
こうとをしてやいうくん
走りはるるアたるおそ
ややらしはのみもこしまつて
一ばしてをすばもつまぬ方主客
云ひうしきかもかも
苦界すうみのかるをそ
うきよくもぬをはのうり
よりうでをとをくる流
もぐいうはのはもぐつ
ゆくをもをもこまる
ゆくをもをもこまる
ゆくをもをもこまる
ゆくをもをもこまる
ゆくをもをもこまる
ゆくをもをもこまる
ゆくをもをもこまる
ゆくをもをもこまる

[illegible]

十三夜の月をおいぐの別と原　和

あつ[illegible]　和

[illegible]　和

元とよいふんとせんも梁塵の　和

ぶぶむらしの香よにはひろ　和

八一夜　初冬なごりのいろこそ　和

ぐごよくくとさまこのもとる　和

二十三夜　にいろ春雨　和

いらよくくしさとのとかるる　和

冬のよるの月あらかしこ　和

ものとうあるむらしの　和

[illegible]

法華の夜の風のうちの夢ゆい　和

いく世庚申の夜の閑とり　り

和歌　うちまとく　橋まとく　嵐まとく　[illegible]

雪の降夫の[illegible]　谷中よ

かく　極楽のうの事をたずねまるのに

安楽の世界　[illegible]